

2-10	
主題	タクティールケア導入によるご利用者の変化
副題	信頼できる、安心できる、リラックスできる！

個別支援	タクティールケア	研究期間	24ヶ月
------	----------	------	------

法人名	社会福祉法人恩師財団 東京都同胞援護会		
事業所名	特別養護老人ホーム ニューフジホーム		
発表者：石黒 祐子・宇佐見 幸太	アドバイザー：なし		
共同研究者：田口 恵子			

電話	042-544-5291	FAX	042-546-1729
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都多摩西部に位置し、昭和56年に開設した定員100人の特別養護老人ホームです。地域の皆さんに支えられながら、今では年間1200名を超えるボランティアの皆さんとともに利用者の生活の向上に努めています。「持ち上げない介護」といった新しいケアも取り入れ、丁寧でやさしい、寄り添う介護を行っています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

100名のご利用者とは接している中、一人一人とゆったりした時間を過ごす事が出来なくなっていた。また、職員が絶えず動いていると、不安感を与えてしまうといった悪循環を引き起こしていた。

特に、不定愁訴が多く精神的に不安定なご利用者は、他のご利用者以上に丁寧な対応を求められていた。

私たちはそのような日々の中で「ご利用者に『大切にされている』と感じてもらいたい」介護度の高いご利用者や精神疾患のあるご利用者に、少しでも安心して頂ける環境を作りたいと考え、タクティールケアを導入することにした。

日常とは異なる静かな環境の中で、一対一で施術出来る時間を設けたことで、ご利用者との新たな関係性が構築されるのではないかと期待された。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

【目的】

◎ご利用者に「自分は大切にされている」という満足感を得て頂く。

- ・職員とより深い信頼関係を築く。
- ・ご利用者の普段と違った一面を発見する

【仮説】

- ・浮腫みが軽減される。
- ・不安感が緩和される。
- ・上記により、不定愁訴が減少する。
- ・夜間良眠できる。
- ・信頼関係が構築されることで、笑顔が増える。
- ・便秘が改善される。

といった、目的及び仮説を立て、精神疾患のあるご利用者を中心に、施術させて頂くことにした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

【タクティールケアとは】

スウェーデン発祥の緩和ケア療法である。施術者の手で対象者に優しく触れ続けることで、穏やかさや安心感をもたらすホルモン『オキシトシン』の分泌を促すものである。

【タクティールケア研修】

平成25年3月 1人目の職員が(JSC I)タクティールケア I コースを受講。受講料64,800円。受講後、背中・手・足のケアを各33回以上実施し、レポートを提出すると認定証書取得試験を受けることができる。

【施術したご利用者】

- F.S様(88歳)女性
既往歴) 廃用性症候群・老人性認知症
主な症状) 不安感が強く、訴えが頻回
- T.I様(93歳)女性
既往歴) 不安神経症・老人性認知症・
自律神経失調症
主な症状) 日中、夜間共に独語が多い・
下肢にむくみが強い
- K.K様(80歳)女性
既往歴) 糖尿病・脳梗塞
主な症状) 夜間不眠・大声を発する・
食事を吐き出す

《4. 取り組みの結果》

• F.S様・・・施術中、傾眠する姿が見られ、リラックスされていることが感じられた。施術後、しばらくの間落ち着いている時間が増えた。

• T.I様・・・わずかではあるが、むくみの軽減が見られた。また表情が柔らかくなり、マッサージを終える頃には施術する職員の手を撫でることもあった。

• K.K様・・・施術者に興味を持っていただけようになり、食事量が増加した。言葉にならない大きな声を発していても、施術後は穏やかになることが増えた。

《5. 考察、まとめ》

【タクティールケア】

タクティールケアを行うことで、周辺症状の強いご利用者や、介護度の高いご利用者の普段見ることのできない表情や、言葉を聞くことができた。また、緊張感・不安感を忘れ、リラックスされたり、施術者に興味関心を持つといった、ご利用者の新たな一面を発見することができた。

試行として約20名のご利用者の方にタクティールケアを行ったところ、多くの方が施術する職員を認識し「またやってほしい」と希望されるようになった。

この様子をタクティールケアを行っていない職員と共有し、理解してもらうことで、タクティールケアを行う落ち着いた環境作りに協力してもらうことができています。

ADLの低いご利用者も、表情が柔らかくなる、浮腫が軽減する、血流が良くなるといった効果を確認することができた。

今後も、ご利用者のニーズに合わせて施術し、不安の軽減を図りたい。そして、いつも私たちを待っていて下さるご利用者の為にも安心して生活できる環境づくりの一つとなるよう、今後も取り組んでいきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

タクティールケア I テキスト
株式会社日本スウェーデン福祉研究所

《8. 提案と発信》

タクティールケアは、ADLの低いご利用者にも、会話を必要とせず関わる事の出来るコミュニケーションツールです。

普段笑顔を見る事の出来ないご利用者の、リラックスした表情を見られる事で、職員のモチベーションも向上します。